

地域

団体名

手ノ子区協議会

活動地 飯豊町大字手ノ子字八幡及び大字高峰字松兀

**団体紹介** 【経過】手ノ子区協議会は、地域課題の協議組織として発足。その後、「里づくり活動」を取り組む。【里づくり活動】①手ノ子地区計画推進②越後米沢街道宇津峠再現③スキー場周辺環境整備④ホタルの里づくり⑤桜の森づくり⑥地域家庭料理の発掘などを実施。【活動資金】会費48万8400円(1世帯3,300円)+助成金(町・県・民間)で総額454万円(R4現在)。【表彰・顕彰】H25知事賞(ホタルの里づくり)、H26環境大臣賞(ホタルの里づくり)、H27総務大臣賞(里づくり活動)、H28山形の宝登録(宇津峠再現)。H29知事賞(桜の森づくり)を受賞。

**活動内容** **八幡山桜の森づくり** 13

haの荒廃採草地を、サクラを主にした花の森に整備する取り組み。サクラの森のほか・早春の花木の森、初夏・初秋の花木の森、紅葉の森、新・深緑(ブナ)の森、などを整備して、雪解けから降雪まで楽しめる森、地域住民に身近な里山に整備する。今年度、着工から12年目を迎えた。



【写真上】今年は、腐葉土がほとんど失った土質を少しでも肥沃にしようと堆肥を散布した。散布後、草刈後の枯れ草と堆肥をプラウで敷き込んだ。(7/20)

**R4の事業** 草地造成の際に失った腐葉土に代わる表土をつくるため土壌改良を行った。そのほか草刈、ニセアカシア根絶やし、欠株への補植を行った。

**イベント事業** 10/12、手ノ子小児童と森のホームスティ事業を行った、22人参加。11/2、桜(はな)の森で森の学習会を行った。今年は、森の公益的機能(H13・日本学術会議)の学習をした。17名参加。



【写真上】子供たちに「森」を身近に感じ、森の大切さを知ってもらおう「森の学習会」を行った(11/2)。児童から「森の保水機能は、地滑りの原因になるのでは。」など鋭い質問が出た。

**活動を行っての感想** 「荒れ果てた採草地を有効活用しよう。」から始めた「桜(はな)の森づくり」だが、今年は、草地造成の際失った腐葉土を補うために土壌改良事業を行ったが、経費が当初の見積もりから大幅に増えてしまった。方法を再検討する必要がある。肥沃な土地づくりが当面の課題。一方、除草剤散布による「ニセアカシア」の根絶やしを行ったが、大株は、枯死したが、小株が密に繁殖し、苗代状態になった。地中に埋もれている種子が一斉に芽出ししたものである。対策が必要。